

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 掛田 勝彦

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田 勝彦	経理責任者	増田 誠宏
視 察 議 員	掛田 勝彦			
期 間	令和3年11月13日（土）～令和3年11月14日（日）			
視 察 先	島根県邑智郡邑南町高水2467-10 天空の宿おおなん いこいの村しまね			
視 察 用 務	2020～2050循環革命における 地域社会の未来像を描く全国研究フォーラム ～地元から世界を創り直す～			
視察先対応者	持続可能な地域社会総合研究所			
概要及び所見	<p>（内容）</p> <p>本研修会は、4部構成で2日間にわたり開催された。第4部では、今後30年間の具体的な道筋や必要な取組について議論を深めるというものである。</p> <p>11月13日（土）13：00～19：30</p> <p>第1部「課題提起～循環革命の必要性と可能性」 第2部「エネルギー革命を起こす」第3部「交通革命を起こす」</p> <p>11月14日（日） 9：00～11：40</p> <p>第4部「新しい暮らしの風景～進化の30年を始動する」</p> <p>今後、待ったなしで求められる循環革命の時代において、これから実現していくだろうとされる地域社会の未来像を明確に描いた上で、社会的技術、生態系の技術、情報技術などを組み合わせた包括的な方法論により、循環型社会へ進化するための具体的な道筋、段階、仕組みを社会の中で暮らす人々と作りだしていくことを目指して開催された。</p> <p>今後の中山間地域のみならず地方の地域づくりの参考になる点があると思い参加した。冒頭に中山間地域として述べたが、それぞれの実情が違うのですぐに本市でも取り入れることは難しいと思ったが、それでも考える材料として申し分</p>			

のない内容だった。また、以前、聞いた話ではあるが、後述する内容を今回の研修を受けて整理することもできたと感じた。

コミュニティーが少子高齢化、人口減少により地域力が減退してことは十分考えられる。それを踏まえた場合、これからの地域づくりには多様性が必要であると研修を受けて考えることができた。今まで出番の少なかった若い人や女性などがそうであると思う。また、地域の自分事が大事で、これまで関われない人たちが、例えばデジタルを使うことで、少し無理なく街づくりや地域づくりに関わることができ自分事として考えるきっかけが作れると思う。デジタルという新しいツールを活用することで、新しい共助を作っていく可能性もあるし、共助の力をつけていくことにもなるはずである。

取組みの目的は、ウエルビーング（幸福）を作っていくことであるが、その場合も多様な住民参加や市民参加が大事で、そのサイクルを作っていくことで持続性が確保できると思う。そのためには人がつながることが大事で、出番と居場所をコミュニティーの中でどのように作るのかが必要だと思っている。つながりの根っこがないと自分たちの幸せを確認できないはずである。地域のエリアについてはそれぞれだと思し、コンセンサスを取りやすい用語とフレームを使って、「みんなで一緒に行こうぜ」を言うことがリーダーには求められてくる。また、関わるコミュニティーをしっかりと作って全員に出番と居場所を提供して、そのコミュニティーが成長していくサイクルを作ることが目指すべき取組みの一つではないだろうか。その際に、企業の存在があってもいいし企業も出番と居場所が必要である。

最後に、自治体とまったく関係のない話かといえばまったくそうではなくて、自治体にフェーバ（支持・賛成）されないと取組みはうまくいかないと思うので上手に見守り、育てていくことも自治体の仕事になるかと思う。研修会の中で、今までの地域づくりは官と民という2つの柱しかないと言われた。その2つをつないでいくコーディネートする存在も必要なのではないかとの発表が特に印象に残った。